

| 学校経営計画の具体的な経営目標・計画 | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1 個性と能力を伸ばす学習指導の展開 | |
| (1) 意欲を引き出し、力を伸ばす学習指導の工夫 | (2) 系選択のための基盤づくりと系の特色ある教育活動の実施 |
| 2 キャリア形成と進路実現につながる学びの提供 | |
| (1) 「6つの力の行動指標」の効果的活用 | (2) 「総探」「表現」等による系統的なキャリア教育の実践と進路実現 |
| 3 生徒の成長を軸に、双方向の学びにつながる地域連携の充実 | |
| (1) ホンモノ（大学や自治体・企業等）からの学びの充実と発信 | (2) テーマ型CSを見据えた連携の在り方の検討 |
| 4 教育環境の整備と協働的な職場づくりの推進 | |
| (1) 教育DXの推進と校内環境美化の徹底 | (2) OODAループが機能する協働的な職場づくり |

| 達成評価 | |
|-----------------|-----------|
| 評価 | 目安 |
| A | 達成基準を上回った |
| B | ほぼ達成基準どおり |
| C | 達成基準を下回った |
| (○は数値評価、●は取組評価) | |

| 番号 | 主たる担当 | 具体的方策 | 方策の評価指標・達成基準 | 中間期 | | 年度末 | |
|---------|---|---|--|--|---|--|----|
| | | | | 達成状況 | 評価 | 達成状況 | 評価 |
| 1 | (1) 教務課 | <ul style="list-style-type: none"> 公開授業の実施方法を改善する。 授業評価アンケートを効果的に活用できるようなシステムを構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> 公開授業に全教員が参加する。 ●授業評価アンケートを基に、各教科で分析・改善が行われる。 ○学校評価アンケートにおいて、「学力向上に向けて、学校全体で取組がなされている」の項目の肯定的な回答が昨年度を上回る（昨年度：生徒93.8% 保護者85.6% 教職員85.4%）。 | <ul style="list-style-type: none"> ○6月の公開授業では1回以上の参観者は98%である。 ●授業参観シートは68枚の提出があり、まとめたものを配付した。授業改善の参考となる意見が多く見られた。1回目の公開授業（6月）時の授業評価アンケートを基に各自が授業改善に取組み、2回目の公開授業（11月）を行う。また、2回目の公開授業後、教科分析を行う。 ○学校評価アンケートを12月初めに行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○6月、11月で全員が公開授業の参観を行った。11月の公開授業での1回以上の参観者は68%であった。 ●個人の振り返りは23件提出があった。ICT活用や生徒の学び合いで参考になったという意見が多かった。教科によるOJT研修も行い、今後の授業改善に向けての意見交換を行った。 ○学校評価アンケート「学力向上に向けて、学校全体で取組がなされている」の項目の肯定的な回答は昨年度と比較して教員で増、生徒、保護者は減となった。（生徒92.3%、保護者81.6%、教員94.1%） | A |
| | 進路課 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒に対しては模試の結果をフィードバックし、モチベーションを引き上げる。 ●教員に対しては、模試結果を分析し改善に向けた方策を示し、共有を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○1・2年次で、進路通信を利用して校外模試ごとに振り返りを行う。 ○職員会議で1・2年次は年2回（夏・冬）学力分析報告を行う。 ●全教員が学力向上に向けて教科指導に取り組む雰囲気を醸成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○1・2年次ともに模試前後に進路通信を発行して意識付けや振り返りを行った。1年次では、それに加えて年次集会を開き、模試について振り返りを行った。 ○1回目の学力分析報告は、9月の職員会議で報告した。 ●8月職員会議にて、入学生徒の学力層が上昇し、志望校も難易度の高い大学にシフトしていることを伝達し、学力向上の必要性を共通認識した。学力向上に向けた醸成が進んでいる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○1・2年次ともに模試前後に進路通信を発行して意識付けや振り返りを行った。1年次では、それに加えて年次集会を開き、模試について振り返りを2度行った。 ○2回目の学力分析報告は、1月の職員会議で報告した。 ●12月の進路検討会、1月職員会議にて、本校の学力状況を把握し、学力向上に向けた継続的な取組を行っていくことを確認した。 | B |
| | 人文系 | <ul style="list-style-type: none"> 「人文表現」での学びを通して、経済学や文学、教育学など人文科学への関心を高め、グループディスカッションや小論文等で自らの考えを論理的に表現する力を養う。 ●主体的にテーマを設定し人文系の特色ある探究活動を行い、各種コンテストや社会貢献活動などの成果発表の場を提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●「人文表現」でのルーブリック評価を実施し、「表現力」を柱とした分析を行う。 ○生徒アンケートにより「自分の思いや考えを表現する力が向上した」などの肯定的な評価を、80%以上の生徒が回答する。 ○2年次生の80%以上が、複数回成果を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●「6つの力」の行動指標にもとづくルーブリック評価を9月末に実施した。12月にもルーブリック評価を行い、その変容を分析する予定である。また、学習状況や提出物、作品、プレゼンも評価する。 ○生徒が主体的に表現する姿がみられ、講座に対する取組も前向きである。12月に授業に関する生徒アンケートを実施予定である。 ○現時点で創作グループ活動や自己紹介のプレゼンなど、全員の生徒が校内では発表を行っている。今後、各種コンテスト等で成果を発表する予定である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ●9月末の段階では、『協働力』の最上段評価項目「共同体の成長」が42.7%、『思考力』の最上段評価項目「多面的な分析」が41.7%と高く、相対的に『創造力』の項目が低めであった。『表現力』では最上段評価項目「検証の深化」が30.1%、2段目評価項目「表現の探究」が64.1%であった。2学期のチームによるテーマ探究や作品作りなどを通じて「共同体の成長」が69.1%、「多面的な分析」が63.8%まで向上した。また、『表現力』では「検証と深化」が68.1%まで向上し、表現力の伸びが著しい。一方、『創造力』の「価値の創造」は41.5%にとどまり、「6つの力」のうち唯一最上段評価項目への回答が過半数に達しなかった。 ○12月の生徒アンケートでは、「自分の思いや考えを表現する力が向上した」について、人文系生徒の100%が肯定的な評価の回答をした。 ○人文表現では、民間企業主催コンテストと総社市文学選奨に、授業で作った作品を人文系生徒の100%が複数回応募した。 | A |
| (2) 理数系 | <ul style="list-style-type: none"> 「理数表現」での学びを通して、理学部や工学部など自然科学への関心を高めグループディスカッションやまとめ等で自らの考えを論理的に表現する力を養う。 ●主体的にテーマを設定し理数系の特色ある探究活動を行い、各種コンテストや社会貢献活動などの成果発表の場を提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●「理数表現」でのルーブリック評価を実施し、「表現力」を柱とした分析を行う。 ○生徒アンケートにより「理数系の学問に対する知識・技能が深まった」等の肯定的な評価を、80%以上の生徒が回答する。 ○2年次生の80%以上が、複数回成果を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●ルーブリック評価については、10月に実施予定である。生徒は主体的に表現する姿がみられ、「理数表現」に対する取組も前向きである。 ○理数系講演後のアンケート（7月に2回）を見ると、「理数系の学問に対する知識・技能が深まった」等の肯定的な評価は75%程度である。今後、2学期にも生徒アンケートを実施予定である。 ○現時点で探究活動を通して、全員の生徒が校内において発表を行っている。今後、総社わくわくフェスティバルやサイエンスチャレンジ等のコンテストやイベントに参加を予定している。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ●10月に生徒に対するルーブリック評価を行ったところ、『表現力』の最上段評価項目「検証と深化」が29%であった。授業での発表等により12月の同じアンケートでは39%に上昇した。 ○「理数系の学問に対する知識・技能が深まった」についての、生徒アンケートによる肯定的な回答は76%であった。 ○総社わくわくフェスティバルへ5名、サイエンスチャレンジ（中止となった）へ8名参加した。両方に参加した生徒が2名であった。また、理数表現の探究的な授業に関する発表を2回行った。校内を含めると80%以上が、複数回成果を発表した。準備を通して、系としての特微的な教育を行うことができた。 | B | |

| 番号 | 主たる担当 | 具体的方策 | 方策の評価指標・達成基準 | 中間期 | | 年度末 | |
|-----|-------|--|--|--|----|---|----|
| | | | | 達成状況 | 評価 | 達成状況 | 評価 |
| | 国際系 | <ul style="list-style-type: none"> 「国際表現」等の活動を通して得た知識や教養を整理して、自分の言葉でスピーチやプレゼンテーション等で表現・発信させる。 スピーチコンテスト、イングリッシュ・デイ、日本語教室ボランティアなど年次を越えた交流の機会を提供する。 授業で培った表現力を外部の人の前やコンテストの場で実践する機会を提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> 「国際表現」でのルーブリック評価を実施し、「表現力」を柱とした分析を行う。 ○事後の活動レポートで、「英語力が向上した」「広い視野が持てるようになった」等の肯定的な評価を、80%以上の生徒が回答する。 ○年次を越えた交流の機会を学期に1回提供する。 ○2年次生の80%以上が、複数回成果を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> 「国際表現」でのルーブリック評価を10月に実施予定である。 ○事後の活動レポートで、「英語力が向上した」「広い視野が持てるようになった」等の記載が80%以上あった。 ○年次を越えた交流の場として、スピーチコンテスト(7月)、文化祭での演劇発表(9月)が実施できた。今後は日本語教室ボランティアの発表の場で今までの成果を活かしたい。 ○7月に2年次生の半数が、Let's study with ジャミ生に参加した。9月に2年次生全員が、文化祭で英語劇を発表した。外部のスピーチやプレゼンのコンテストに数名が参加した。今後さらに日本語教室ボランティアに参加し、成果発表を全員実施予定である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 「国際表現」でのルーブリック評価を10月と12月に実施した。演劇や翻訳の活動を通して『表現力』の最上段評価項目「検証と深化」を選択した生徒が、10月31.3%から12月40.6%に高まった。 ○事後の活動レポートの記載から「英語力が向上した」「広い視野が持てるようになった」等の肯定的評価が100%となった。 ○1学期はスピーチコンテスト、2学期は演劇発表とイングリッシュ・デイ、2～3学期は日本語教室ボランティアに参加し、各学期に年次を越えて活動・交流している。12月実施のイングリッシュ・デイには、来年度国際系希望者も参加し交流が深まった。さらにLet's study with ジャミ生は夏は7、8、9月に実施し、冬は12月と1月に実施した。 ○9月の英語劇発表、12月イングリッシュ・デイでの英語プレゼンテーション、3月の日本語教室ボランティアの成果発表により、2年次生の100%が、2回以上成果を発表した。 | A |
| | 美工系 | <ul style="list-style-type: none"> 「美工表現」や総合的な探究の時間などの活動を通して社会や美術・デザインに関する関心を高めさせ、多様な方法で表現できる力を育成する。 主体的にテーマを設定し美工系の特色ある探究活動を行い、各種コンクールや社会貢献活動などの成果発表の場を提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> 「美工表現」でのルーブリック評価を実施し、「表現力」を柱とした分析を行う。 ○授業や行事での学びを通して、90%以上の生徒が「表現」をする力が身に付いたと答える。 ○2年次生の80%以上が、複数回成果を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> 「美工表現」のルーブリック評価を10月と12月に行う予定である。 ○「表現する力がついたか」を問うアンケートは、10月と12月に行う予定である。 ○2年次生が成果を発表できる場として、現在までに岡山県高校生美術コンクールやLet's study with ジャミ生、安富牧場の顔出しパネル作成、中学生講座等で約50%の生徒が外部に成果を複数回発表している。12月には美工系作品展も控えている。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 「美工表現」のルーブリック評価を10月・12月に行った。どちらも最も高かったのは『表現力』、低かったのが『思考力』『判断力』である。思考・判断をしていることに気付けるような教員の働きかけが必要なのかもしれない。今後の教員の働きかけによっての評価の変化を見たい。 ○10月・12月に行ったアンケートでは、年度当初より「表現力が付いた」と答えた生徒が93%であった。 ○美工系作品展の開催や岡山県高校生美術コンクール参加など、2年次生の100%が複数回成果発表を行うことができた。 | A |
| (1) | 生徒課 | 学校祭や球技大会などの生徒課学校行事において、生徒へ身につけさせたい6つの力の行動指標を明示・実施・評価する。 | <ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価を実施し、分析する。 ●目的を意識し実施することで深い学びと成長が得られる。 | <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果は春季球技大会、生徒総会において、95%以上の肯定的な評価であったが、生徒がより具体的に自己評価・改善につなげられるようなアンケートに改善していく。 ルーブリック評価は、11月の球技大会で実施予定である。 ●全体的に目的を明示し実施することで、主体的かつ積極的に取り組む姿勢が見受けられる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒課関係行事におけるアンケート結果は、95%以上の肯定的な評価があり、秋季球技大会でのルーブリック評価では『実行力』において最上段と2段目評価項目まで達成することができた生徒が85.7%を占める結果となった。 ●各行事の実施要項や開催時に目的を明示した上で取りまとめることで、より深い学びと個々の成長につながった。 | A |
| | 進路課 | 未来探究Ⅰ・Ⅱ、表現Ⅰにおいて、6つの力の行動指標を生徒に示し、目的意識を持って活動に取り組みさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価を実施し、分析する。 ○生徒アンケートにより「問題意識をもって学習に取り組み、解決に向けて行動する力が向上した」などの肯定的な評価を、80%以上の生徒が回答する。 ●実施・評価した上で、活動内容を見直す。 | <ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価は、未来探究発表会後などの振り返りのときに実施する予定である。 ○生徒アンケートは、ルーブリック評価と合わせて実施する予定である。 ●年度当初に作成した「表現Ⅰ」と「総合的な探究の時間」の実施内容計画表(年間)を、各年次で実践中である。1人の教員に負担が集中していたり、2年間の探究活動のイメージが共有できていなかったり、発表の方法などの課題があると考えられる。活動内容の見直しを始めている。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ●ルーブリック評価は、未来探究発表会の振り返りで実施した。 ○生徒アンケートも、ルーブリック評価と合わせて実施した。 ●12月に「総合的な探究の時間」に関する先進校視察を実施し様々な情報を得た。また、それを職員会議で共有した。担当者や関連する教員で「総合的な学習の時間」「表現」「社会貢献活動」を総合的にマネージメントしながら見直しをすすめている。 | B |
| | 人文系 | 授業や人文系行事において、6つの力の行動指標を生徒に示し、目的意識を持って活動が実施できるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価を実施し、分析する。 ○生徒アンケートにより「問題意識をもって学習に取り組み、解決に向けて行動する力が向上した」などの肯定的な評価を、80%以上の生徒が回答する。 | <ul style="list-style-type: none"> 行事等におけるルーブリック評価を、12月に実施予定である。 ○人文表現では表現力を軸とした学習に取り組み、7月の講演会では協働力の育成につながる活動ができた。12月に生徒アンケートを実施予定である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ●12月18日に実施した人文系講演会のルーブリック評価において、『思考力』の最上段評価項目「多面的な分析」の段階に達したものは44.6%、2段目評価項目「情報の収集」段階のものが48.2%で、概ね論理的・多面的に思考する力を育むことができた。 ○2学期末考査後に行った生徒アンケートでは、「問題意識をもって学習に取り組み、解決に向けて行動する力が向上した」の項目において、100%の生徒が肯定的な評価を回答した。 | B |
| | 理数系 | 授業や理数系行事において、6つの力の行動指標を生徒に示し、目的意識を持って活動が実施できるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価を実施し、分析する。 ○生徒アンケートにより「問題意識をもって学習に取り組み、解決に向けて行動する力が向上した」などの肯定的な評価を、80%以上の生徒が回答する。 | <ul style="list-style-type: none"> 行事におけるルーブリック評価を、12月に実施予定である。 ○理数表現では表現力を軸とした学習に取り組み、7月の講演会では協働力の育成につながる活動ができた。2学期は探究活動を軸にした実験・実習をおこなう。授業に関する生徒アンケートを12月に実施予定である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ●10月に行った行事のルーブリック評価では、重視した『協働力』『実行力』の最上段評価項目「共同体の成長」「過程の省察」がそれぞれ25%、35%であった。12月に同じアンケートを行った結果、実験や考察の授業により、それぞれ45%、42%に上昇した。 ○生徒アンケートにより「問題意識をもって学習に取り組み、解決に向けて行動する力が向上した」の肯定的な評価を回答した生徒は68%であった。 | B |

| 番号 | 主たる担当 | 具体的方策 | 方策の評価指標・達成基準 | 中間期 | | 年度末 | |
|----|-------|--|--|---|----|---|----|
| | | | | 達成状況 | 評価 | 達成状況 | 評価 |
| 2 | 国際系 | 学校内外の国際系の活動を、場面に応じて6つの力の行動指標を生徒に示し、目的意識を持って活動が実施できるように指導する。 | ●ループリック評価を実施し、分析する。 ○生徒アンケートやレポートにより、「問題意識をもって学習に取り組み、解決に向けて行動する力が向上した」等の肯定的な評価を、80%以上の生徒が回答する。 | ●学校内外の国際系の活動におけるループリック評価を、10月と12月に実施予定である。 ○国際系の事後の活動レポートで「問題意識をもって学習に取り組み」の記載は80%以上あった。「解決に向けて行動する力が向上した」の記載は、80%に達していない。生徒アンケートは12月実施予定である。 | B | ●10月と12月に実施した行動指標にもとづくループリック評価では、6つの力の最上段の項目がすべて伸長した。最上段評価項目が最も高かったのが『表現力』で、伸長率が最も大きかったのが『創造力』であった。特に翻訳プロジェクトにより、認知・非認知の能力がともに高まったと考えられる。 ○活動後のレポート及び生徒アンケートは、「問題意識をもって学習に取り組み、解決に向けて行動する力が向上した」の項目において、100%の生徒が肯定的な評価を回答した。 | A |
| | | 日頃の授業や美工系行事、進路指導において、場面に応じて6つの力の行動指標を適切に生徒に示し、意識させるよう指導する。事前指導で達成すべき項目を示し、事後に生徒が振り返ることができるようにする。 | ●ループリック評価を実施し、分析する。 ○美工系の授業や行事の活動等で、生徒自身のどんな力を伸ばそうとする活動なのか意識させ、事後の生徒アンケートでその項目について80%以上の生徒が「授業の最初に教員に示された力があったか」という項目に肯定的な回答をする。 | ●10月半ばと12月上旬にループリック表を使用しての自己評価を行いたいと考えている。 ○生徒アンケートは美工系作品展までに実施する予定である。現在、6割程度の生徒は授業で示している力が身に付いていると感じる。 | B | ●10月・12月のループリック評価とも行事に関しては『実行力』、次いで『表現力』の評価が高かった。低かったのは『思考力』・『創造力』である。行事では生徒に考え決めさせる場面が少ないからであろうと推測される。今後は生徒に判断させるような取り組みが必要であると考えられる。 ○生徒アンケートでは96%の生徒が「最初に教員に示された力があった」と回答した。 | B |
| | 進路課 | ・未来探究Ⅰ・Ⅱ、表現Ⅰと進路行事を関連づけ、効果的なキャリア教育・進路指導を行う。 ・Google Workspace、Classi、キャリアナビを活用し、未来探究Ⅰ・Ⅱ、表現Ⅰを充実させる。 | ●進路シラバスを作成し、教員間で共有する。 ○大学教員等を8名以上招き、探究活動のレベルを上げる。 | ●進路シラバスは3割程度完成し12月に完成予定。 ○10月に中国経済産業局（2名）によるリソース（ビックデータ）の研修会を1年次に実施した。また、1年11月から始まる探究活動において、テーマ決めするときや発表会するとき、大学教員を招聘する計画である。 | B | ●進路シラバスは完成し、2月の職員会議で説明した。 ○中国経済産業局職員2名の方にリソースの研修会、大学教員6名の方に、データの集め方、テーマ決め、探究の進め方などについて指導を頂いた。また、2年次の発表会の際に、大学教員等2名の方に講評して頂いた。 | B |
| | 人文系 | 探究科目や人文系行事、「人文表現」を関連づけ効果的なキャリア教育・進路指導を行う。 | ●探究科目や人文系行事、「人文表現」を関連づけた構想図を作成し、教員間で共有する。 ●「人文表現」の授業内容と計画をブラッシュアップしながら、将来に向けての職業選択や総合的な探究の時間での活動に関連付けるようにする。 | ●構想図については12月末を目途に完成見込みである。 ●今年度より新たに系の取り組みとして夏に地域貢献活動「Let's study with ジャミ生」を行った。今後、人文表現での学びの成果を「俳句コンテスト」や「第2回 Let's study with ジャミ生」などで活用させたい。 | B | ●構想図の素案が12月末に作成できた。 ●人文系行事である「Let's study with ジャミ生」の夏の講座は、小学生に宿題を指導する体験を通じて、教育に対する意識を高める機会となった。また、人文表現での学びを通じて、探究の方法や防災に対する意識、言語や文化に対する意欲・関心を高めることができた。 | B |
| | 理数系 | 探究科目や理数系行事、「理数表現」を関連づけ効果的なキャリア教育・進路指導を行う。 | ●探究科目や理数系行事、「理数表現」を関連づけた構想図を作成し、教員間で共有する。 ●生徒の進路選択や深い学びにつながる授業の構成や校外研修、専門家を招いての講演会を実施する。 | ●構想図については12月末には完成予定である。 ●大学教員等による講演会を3回実施した。また、岡山県立大学において、2年次生が工学系の実習を行った。今後、サイエンスチャレンジや総社わくわくフェスティバル等に参加予定である。 | B | ●構想図の素案が12月末に作成できた。 ●大学教員等による講演会を3回行うことができた。それを通じて進路への意識を高めることができた。また、総社わくわくフェスティバルにブースをだして運営した。サイエンスチャレンジについては、荒天のため中止となったが、その準備段階において課題の取り組みを通して深い学びをすることができた。 | B |
| | 国際系 | 探究活動や国際系行事、「国際表現」を関連づけながら、地域や世界の諸問題等、国際的な内容について理解を深めさせ、進路実現につなげる。 | ●探究活動や国際系行事、「国際表現」を関連づけた構想図を作成し、教員間で共有する。 ●プレゼンテーションやスピーチなどを利用して総合型や学校推薦型入試に対応できるように、各年次での指導と年次を越えて連携のとれた指導体制を充実させる。 | ●構想図については12月完成を目指して検討中である。 ●1、2年次の国際系では、5、6月にスピーチコンテストに向け、知識を身につけ視野が広がる指導を行なった。また、発表準備において互いに意見を出す機会を設けた。3年次については、総合型入試や学校推薦型入試に向けた指導体制が構築できている。今度、指導内容を共有し、より充実したものにしていく。 | B | ●構想図の素案が12月末に作成できた。 ●探究活動や国際系行事で2年次生が1年次生の良いロールモデルとなった。そのことが2年次生にも高い意識付けにつながったと考えられる。大学入試においては、年次を越えて小論文や面接の指導に連携して臨むことができた。 | B |
| | 美工系 | 2年次の総合的な探究の時間で興味のある分野についての探究活動を行い、表現の授業ではそれらを作品として表現したり、プレゼンテーションとしてアウトプットしたりする活動を行う。また、系行事で学校外のヒトやコトとつながりを持てるような機会を設定する。それら3つを関連づけながら進路実現につなげる。 | ●「美工表現」の授業内容と計画をブラッシュアップしながら、将来に向けての職業選択や総合的な探究の時間での活動に関連付け、構想図を作成して教員間で共有する。 ○表現の授業での課題ごとに自分の作品について文章で表現する活動を毎学期1回以上行う。 ●総合型入試・学校推薦型入試を見据え、2年次のうちに志望理由書を書かせ、進路意識を育てていく。 | ●総探の授業との連携はできていない。総探の係の先生と話をする予定である。構想図の完成は12月の予定である。 ○表現の授業では今まで課題ごとに、1学期3回、生徒に自分の作品について話をさせたり文章で表現させたりできている。 ●志望理由書の作成は2年全員の5割程度（絵画専攻の生徒）について行った。残りの生徒は、2学期中に実施予定である。 | B | ●構想図の素案が12月末に作成できた。 ○表現の授業では1学期3回、2学期2回、3学期1回、自分の作品に対して文章や口頭で表現させる機会を設けた。 ●志望理由書の作成を2年生全員に対して行い、進路意識を育てることができた。 | B |
| | 生徒課 | 生徒の成長を軸とした社会貢献活動の効果的な仕組みをつくる。 | ○学校評価アンケート「学校は行事・ボランティア活動等に積極的に取り組ませている」において、生徒の90%以上が肯定的な評価をする。 ●活動の改革を行うことで、生徒のより深い学びの獲得と充実を図り、成長を促す。 | ○学校評価アンケートは12月に実施し、アンケート結果をもとに次年度の活動へ反映していく。 ●昨年度までの依頼者のニーズに答えることが中心の活動とは異なり、学習支援など生徒の主体的な取組を意識した活動に変更し、充実した内容・活動となっている。 | A | ○学校評価アンケート「学校は行事・ボランティア活動等に積極的に取り組ませている」の結果では肯定的な評価が99.2%であった。 ●「Let's study with ジャミ生」を総社市教育委員会との連携事業として実施するなど生徒の主体的な取組を意識した改革を行った。その結果、生徒アンケートは高評価になり、また校内システムの改善によって運用面での教員負担の軽減にもつながった。 | A |

| 番号 | 主たる担当 | 具体的方策 | 方策の評価指標・達成基準 | 中間期 | | 年度末 | | |
|----|-------|---|---|---|---|---|--|---|
| | | | | 達成状況 | 評価 | 達成状況 | 評価 | |
| 3 | (1) | 本校の教育活動全般について、学校案内、学校ホームページ、ブログ、SNS、みなみNEWSなどで内外へ積極的に配信する。 | ○中学3年生の進学希望状況第1次調査における本校志願者が、定員の1.35倍以上になる。 ○広報行事のアンケート結果で、肯定的な回答が90%以上になる。 ●SNSアップ方法の研修を実施する。 ●SNSで日々の教育活動をリアルタイムに配信する。 | ○夏季オープンスクールの参加者アンケートの結果で、「参加してよかった、本校の取り組みがわかった」という回答が95%以上になった。今後の秋季オープンスクールや学校説明会等で広報活動にさらに力を入れ、中学3年生の本校進学希望率の上昇につなげる。 ●5月にInstagramの活用研修を行い、日々の教育活動をリアルタイムに配信できている。9月現在では、投稿数176と4月から1日1回ペースで配信し、フォロワー数も1182となっている。 | B | ○中学3年生の進学希望状況第1次調査における本校志願者が、定員の1.41倍であり、目標を達成することができた。 ○オープンスクールの参加者アンケートをはじめとする総務課行事のすべてのアンケートで、「参加してよかった」、「本校の取組がわかった」という意見が参加者の90%以上になった。 ●5月にInstagram活用研修を実施した。 ●各課、系、年次、教科、部活動など様々な部署から定期的に、学校内外へ本校の教育活動の情報を発信することができた。4月からアカウントを開設し、1月17日時点で254投稿、1283フォロワーとなった。 | A | |
| | (2) | テーマ型コミュニティスクールの実現に向けて、制度の在り方や他校の様子などの情報収集を行い、次年度の実施に向けて計画を策定する。 | ○先進校の3校以上から情報を収集する。 ●校内にプロジェクトチームをつくり、チームで進める。 | ○テーマに沿った内容でポンチ絵を作成中で、12月中には先進校からの情報収集を行う。 ●今後の方向性を決めたら校内でプロジェクトチームを立ち上げ、来年度の計画を策定する。 | B | ○ポンチ絵の素案を作成し、先進校からの情報収集を続けている。年度末までに3校以上から情報を収集する。 ●チームで検討を重ね、テーマは「グローバル」の方向性で定まった。充実したコミュニティスクールとするため、チームを拡大し次年度も継続して研究を深めることとした。 | B | |
| 4 | (1) | DXハイスクールの校内体制を構築し、環境・設備を整える。年間指導計画を策定する。 | ●DXハイスクールの校内体制ができ、指導計画が完成する。環境・設備が完成し、計画に従った運用ができる。 | ●DX教室の整備は80%程度できている。指導計画は60%程度できている。講演会を計画している。教員研修と先進校視察を行う予定である。 | B | ●DX教室の環境整備が完成した。来年度の指導計画は80%できている。教員研修と3校の先進校視察を行った。 | B | |
| | | 定期的な安全点検の可視化を行い、適切に環境整備を行う。 | ○毎月1回の安全点検の徹底をはかる。 | ○毎月1回行っている。34件改善要求（5～7月）中、12件改善。 | B | ○毎月1回安全点検を行っており、事務と予算を相談しながら改善を行った。必要に応じて即時対応を行ってもらった。本年度49件改善要求中、20件改善した。 | A | |
| | 教務課 | 業務の内容や手順が見えるよう、課内フォルダを整理し、必要に応じてマニュアルを整備する。 | ●フォルダ名・ファイル名を規則に則って整理する。 ○フォルダ整理やマニュアルの作成・整備が80%以上完成する。 | ●フォルダの整理は80%程度整った。 ○マニュアルは60%程度作成している。 | B | ●フォルダの整理はできた。 ○マニュアルは80%以上作成した。 | B | |
| | 生徒課 | ・学校行事や生徒課業務内容の精選や効率化を意識し改善する。 ・業務の内容や手順が見えるよう、課内フォルダを整理し、必要に応じてマニュアルを整備する。 | ●行事の内容の精選、生徒手帳のカード化、課内分掌の改善。 ○フォルダ整理やマニュアルの作成・整備が80%以上完成する。 ●課内での新しい意見を取り入れ、協働的な組織になる。 ●フォルダ名・ファイル名を規則に則って整理する。 | ●学校祭や球技大会を中心とした行事の内容を課内で精選し、次年度へ向けた原案を作成中である。生徒手帳のカード化については、カード情報の内容の検討を重ねており、次年度から運用予定である。課内分掌の改善については、課題発生時、取組みを行っている。 ○各係で課内フォルダの整理、マニュアルの作成については、順次作成し60%程度完成している。 ●課内での新しい意見は、積極的に取り入れ、協働的な取組みが行えている。 | B | ●生徒課関係行事全般に関しては、課内で意見交換しながら精選や改善を行った。生徒手帳のカード化は次年度から運用予定である。課内分掌の改善については、随時、取組みを行っている。 ○各係で課内フォルダの整理、マニュアルの作成については、順次作成し70%程度完成している。 ●南翔祭や球技大会の企画内容や運営方法の変更など新しい意見を積極的に取り入れることで、連携が強まり協働的な組織となった。 ●フォルダ名・ファイル名を規則に則って70%程度整理できた。 | B | |
| | (2) | 進路課 | ・業務の内容や手順が見えるよう、課内フォルダを整理し、必要に応じてマニュアルを整備する。 ・IT化を推進し、進路情報を整理する。 | ●フォルダ名・ファイル名を規則に則って整理する。 ○フォルダ整理やマニュアルの作成・整備が80%以上完成する。 ●進路HPを作成し、教職員・生徒が情報にアクセスしやすくする。 | ●フォルダは業務内容ごとに仕分けが完了した。 ○マニュアルは3割程度完成し1月中に完成予定である。 ●進路HPは構想中であり、令和7年度からの運用予定である。 | B | ●フォルダは業務内容ごとに仕分けが完了した。 ○マニュアルは80%完成し、3月中に全てが完成する予定である。 ●進路HPの構想が完成し、年度内の職員会議に諮り、令和7年度から運用を開始する予定である。 | A |
| | 厚生課 | 業務の内容や手順が見えるよう、課内フォルダを整理し、必要に応じてマニュアルを整備する。 生徒支援に向けて、各担任や学年と協力して取り組む。 | ●フォルダ名・ファイル名を規則に則って整理する。 ○フォルダ整理やマニュアルの作成・整備が80%以上完成する。 ●学内外で情報を共有し、学外の機関とも連携を進めていく。 ○適宜ケース会議を行い、教育相談週間を新たに2回設ける。 | ●フォルダの整理整頓を行っている。(50%) ●学内外で情報を共有し、SSWを通して学外の機関（児童家庭支援センター、児童相談所、保健師）とも連携を進めている。 ○適宜ケース会議を行い、教育相談週間を新たに2回（5月、8月）設け、生徒の相談にあたった。 | B | ●フォルダ名・ファイル名を規則に則って整理中を行った。(80%) ○フォルダ整理やマニュアルの作成・整備が80以上完成している。 ●学内外で情報を共有し、学外の機関（児童家庭支援センター、児童相談所、保健師）とも連携を図った。 ○適宜ケース会議を行い、教育相談週間を新たに2回（5月、8月）設け、生徒の相談にあたった。 | A | |
| | 総務課 | 総務課行事の遂行や新しい試みを実施する際、会議以外のツールも活用しながら、他部署との連携を強化し迅速に進める。 | ●Googleスペースやリマインダーを活用する。 ●整理整頓されたフォルダ作成を行う。 | ●Googleスペースを活用することで課内の情報共有を素早くかつ正確にし、8月末までに定例会議を月1回ペースにおさえることができた。 ●フォルダの整理整頓が80%程度できている。 | B | ●Googleスペースやリマインダーを活用することで課内の情報共有を素早くかつ正確にし、定例会議を月1回ペースにおさえることができた。 ●フォルダの整理整頓が90%程度できている。 | B | |